けがに対する危機回避能力の育成

～校内で起こるけが防止に向けた課題解決的な活動を通して～

伊勢崎市立坂東小学校　　教　　諭　須田　康子
前伊勢崎市立坂東小学校　養護教諭　河野　悠
（現富岡市立小野小学校）

１　はじめに

本校の学校教育目標は「すすんで学び　思いやりのある　たくましい子ども」であり、目指す児童像に「仲間とともに自分を高める子」を掲げている。これらを受け、学校保健目標を「自ら進んで、健康的な生活を実践する子どもの育成」と設定し、スローガン「健やかな心と体の坂東っ子」のもと、学校保健の推進を図ってきた。

本校の児童は明るく元気であるが、自他の健康・安全への関心が薄いことが課題として挙げられる。平成２６年度、２７年度のけがによる保健室来室は一日平均２５件であり、運動に伴うけが以外に、不注意やふざけていて起こったけがも多くみられた。児童のけが防止や安全に対する意識が低く、正しい判断や安全な行動が十分にとれないことが、けがをする大きな原因になっていると考えられる。

そこで、平成２８年度の重点目標に「けが防止に関する意識を高める」を掲げ、保健の観点から安全教育に取り組み、児童の「けがに対する危機回避能力の育成」を目指した。

２　実践の概要

けが防止に関する意識を高め、児童の危険回避能力を育成するために、委員会活動（保健委員会）、保健指導（学級活動）、保健学習、学校保健委員会、けがのふりかえりシートの活用などの取組を行った。その際に、以下の点を重視した。

①学校経営方針の柱の一つである「共生」（認め合い高め合う集団づくり）を念頭に、友達と協働して課題解決をしていく児童の自発的・自治的な活動を大切にすること。

②けがを防止するための知識の習得だけでなく、対象に自分から働きかける探究的な学びの過程が身に付くよう工夫すること。

③委員会活動（保健委員会）を中心にしながら児童会本部や体育委員会と協力する、保健指導や保健学習においては担任や担当とが協力するなど、組織的に取り組むこと。

３　実践のねらい

校内で起こるけが防止に向けた課題解決的な活動を通して、けが防止の意識を高め、けがに対する危機回避能力の育成を図る。

４　具体的な実践

（１）委員会活動（保健委員会）

①　けがマップの作成

年度当初の委員会活動における組織づくりの際、児童に保健委員会の役割を話す中で、昨年度や一昨年度けがが多かったことを知らせ、それを減らすためにどうしたらよいかを考え実践していってほしいことを伝えた。保健委員の中にも、今までにけがをした児童もおり、坂東小学校のけがを減らすという課題については、必要であると感じた児童が多かった。すぐに、「ポスターを作ろう。」などの意見も出たが、まず、今の坂東小学校のけがの実態を把握することが大切であることを知らせ、「けがマップ」の作成を提案した。

「けがマップ」は、けがで保健室へ来室した児童に、どこでけがをしたか（場所）、どんなけがをしたか（けがの種類）の聞き取りを行い、模造紙に描いた学校の簡単な見取り

図（地図）上のけがをした場所にシールを貼って作成した。シールはけがの種類ごとに色分けをし、どんなけががどこで多いのかが、一目で分かるよう工夫した。全校児童にもけがの実態を知ってもらえるよう、保健集会で紹介し、保健室前に掲示して保健委員が毎日更新した。また、けがマップは学期ごとに作成し、けがの増減等の変化を視覚的に比較できるようにした。

保健委員会の活動の様子①

けがマップ

けがマップを作成する前には、児童は、校庭でのけがが多いと予想していたが、実際に調べてみると、廊下や教室といった校舎内のけがが思ったより多いことや教室でのけがの種類が多いことが分かったなどの感想があげられた。そのことも保健集会で全校に知らせた。実際に調べてみたことで、児童は坂東小学校のけがの実態を客観的に把握することができた。

②　けが防止マークの募集と掲示

次に、けがマップから把握した校舎内のけがをしやすい場所でけがが起こらないように注意を喚起するための方法として、けが防止マークを貼ることを考えた。

全校に呼びかけ、マークのデザインを募集した。応募総数８９枚の中から保健委員会で話し合い、決定した。その際に、「見たら立ち止まって自分の行動を振り返ってほしい」というマークを掲示する目的を考えながら、一目で分かるように簡単ではっきりしていることや、「廊下を走ってはいけない」など行動を禁止するものでないことを観点として選んだ。

実用化するにあたっては、応募から選んだマークをもとに、色や大きさを変えた試作品を作り、実際に階段や教室に貼ってみて見え方を保健委員同士で確認するなど、より分かりやすいものになるように検討を行った。

保健委員会の活動の様子②

坂東小けが防止マーク

けが防止マークは、全校に紹介をした後、保健委員会が廊下や階段の曲がり角、児童玄関に児童の目線の高さに合わせて貼った。また、各教室にもマークを２枚ずつ配布し、教室でけがが起きやすい場所について学級で話し合ってから貼ってもらうように学級担任に

依頼した。

活動を振り返った保健委員の児童からは、良い点として、危険な行動の減少や全校児童の意識と行動の変化に着目した感想があげられた。一方で、改善点について、だんだんみんなが見慣れてきてしまっていることから、マークの定期的な見直し等、今後の取組につながる感想があがっていた。

保健委員会の活動の様子③

③　遊具の使い方の検討

校舎内のけがの防止以外に何かできないかを考え、校庭にも目を向け、遊具の使い方に着目したけが防止について考えた。

児童の生活経験の中から、危ない遊び方をしていることが、けがにつながるのではないかと考えた。そこで、本校にあるすべての遊具を写真に撮り、それぞれの遊具について、使うときどんなことに気を付けるかを、自分たちの経験や低学年の遊んでいる様子を思い出しながら話し合い、まとめた。

まとめたことを伝える方法として、危険予測にクイズの要素も取り入れ、考えながら楽しんでけが防止について学べるよう工夫した。

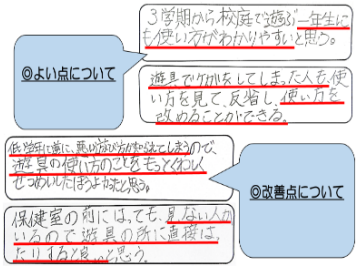
具体的には、保健室前に、「遊具を使うとき、どんなことに気をつける？キケンを予測しよう！」というコーナーを設置した。やり方は、「気をつけること」のカードを選んで、遊具の写真の下に磁石で貼る。貼ったものが正しかったか一番下の色画用紙をめくって答えを確認するといったものである。

気を付けることは、一つではなく複数あり、いろいろな面から危険を予測できるようにした。遊具によって気を付けることが異なるため、遊具の写真は一週間ごとに入れ替え、毎週挑戦できるように工夫した。

活動を振り返った保健委員の児童からは、良い点について、１年生にも分かりやすいことや、前に遊具でけがをしたことがある人も再確認できること等、分かりやすさや振り返りやすさに着目した感想があげられた。一方で、改善点については、悪い遊び方が強調されないようにすることや、保健室前だけでなく遊具に直接掲示することなど、説明内容の変更やより効果的な掲示の方法について考えた感想があげられた。

保健委員会の活動の様子④

危険予測のコーナー



児童の感想

（２）保健指導（学級活動）

①　授業のねらい

場面絵を活用して危険予測をしたり、危険回避の方法を考えたりすることで、安全な行動について考え、実践できるようにする。

② 指導の内容

不注意から起こるけがを防ぐための危険予測や危険回避をする能力の育成には、日常的な指導が大切であると考え、廊下の歩行場面を取り上げた。発達段階を考え、場面絵を使った指導案例を低・中・高学年用に作成した。

学年	題材名	ね　ら　い	時間
低学年	ろうかのきけん	○廊下で起こる危険を予測し、けがをしないための行動について考えさせる。 ○自分の廊下の歩き方を振り返り、安全な廊下の歩き方ができるようにする。	２０分
中学年	安全なろうかの歩き方	○廊下で起こりうるさまざまな危険を予測させる。 ○危険を回避するための行動について考えさせることにより、安全な廊下の歩行ができるようにする。	２０分
高学年	安全なろうかの歩行	○廊下で起こりうるさまざまな危険を予測させる。 ○危険を回避するための行動について考えさせることにより、安全な廊下の歩行ができるようにする。 ○日常生活における危険を回避する行動習慣についての意識も高める。	２０分

＜中学年用　指導案例＞

1　題材名　安全なろう下の歩き方について
2　ねらい　廊下で起こりうるさまざまな危険を予測し、それらを回避するための行動について考えさせることにより、安全な廊下の歩行ができるようにする。
3　準備　場面絵（中学年用）
4　本時の展開

学　習　活　動	支　援　及　び　留　意　点	時間	評価項目（方法）
1　廊下での行動を思い浮かべる。 安全なろう下の歩き方について考えよう。	○廊下で起こる危ない行動について想起させる。	3	
2　場面絵の状況を考える。 	○場面絵の状況を話し合わせる。 ・男の子たちが話しながら、廊下を走っている。 ・床が水で濡れている。 ・女の子が前を向いて、右側を歩いている。（正しく歩いている。） ・教室のドアが開いている。	12	
3　場面絵を見て、予測される危険について話し合う。	○場面絵を見て、どんな危ないことが起こりそうなのかを発表させる。（**場合によっては、短時間ペアで話し合わせてから発表させる。**） ・左側を走っている男の子が、女の子に気づかずにぶつかって、女の子がけがをしてしまう。 ・ぶつかった男の子もけがをしてしまう。 ◎床が水でぬれているので、滑って転ぶ。 ◎教室から誰かが出てきたら、その人ともぶつかってしまうかもしれない。 ○◎の潜在的な危険についても気づかせるようにする。		
4　けがをしないようにするには、どうしたらよいかを考える。	○自分が場面絵の登場人物だったらどうするかを考えさせることによって、これからの自分の行動に結びつくようにする。 ・廊下は右側を歩く。（走らない。） ・前をよく見て歩く。 ・廊下がぬれていたらふく。 ・教室から廊下に出るときは飛び出さない。（廊下にいる人にぶつかるかもしれない） ・廊下でふざけない。		・危険を予測し、けがを防ぐ方法について自分なりの考えを持ち、安全に歩行しようとする。（発言）
5　まとめをする。	○保健委員会やクラスで掲示した「けが防止マーク」にも注意して、廊下だけでなく階段や玄関、教室でも安全に歩行できるようにしていくことを意識づける。	5	

事後…短い時間でよいので、帰りの会等で振り返る機会を設ける。

授業の様子

③　成果と課題

実践後、授業者から以下のような感想があがった。

・一回の指導では定着が難しいので、定期的・継続的に指導ができると良い。（低・中・高学年）

・潜在的な危険予測は、初めは意見が出てこなかったが、教師の投げかけで場面絵から気付くことができた。（低学年）

・廊下の歩き方だけでなく、他の場面での危険について考えたり、周りの環境にも目を向けたり、自分と相手の行動を考えることができた。（低・中学年）

・場面絵が分かりやすいため、状況をすぐにつかみ、危険を予測する意見が進んで出た。（低・中・高学年）

成果としては、場面絵を使った指導案例を作成したことで、分かりやすく取り組みやすかったことや２０分程度の指導計画にしたことで、学級の実態に応じて実践できたことがあげられる。

一方、課題としては、廊下だけではなく、他の場面についても指導ができるとよいことで、その改善策として、教室やプール等の場面絵を作成したり危険予測の能力を高める指導の工夫をしたりすることが挙げられる。二つ目の課題としては、定期的、継続的な指導で、その改善策として、機会を捉えた継続的な指導をしていくために保健部からの情報提供、教材準備、指導の呼びかけをしていくことが挙げられる。

（３）保健学習（第５学年「けがの防止」）

保健学習の機会を捉え、第５学年体育科「けがの防止」の指導計画を、保健委員会や保健指導などの学校全体の取組と関連付けて作成した。指導計画の検討会には、保健部と第５学年担任が参加した。作成のポイントとして次の三つを考えた。

指導計画の検討

＜ポイント１＞保健委員会の取組や資料の活用

・保健委員会が作成した「けがマップ」、アンケート結果などを資料として活用したり、保健委員の仕事で気づいたことを発表させたりする。

・自校や地域の事例を使った具体的な資料を適宜活用する。

＜ポイント２＞養護教諭とのＴ・Ｔ指導

・専門的な立場からの説明や実習の指導を行うことで学習内容の理解を深めるとともに、グループ活動ではきめ細かく見取り、指導に生かす。

＜ポイント３＞体験的学習の工夫

・ロールプレイングや模擬実習などを取り入れ、理解した知識を使って実際にやってみることで、実践化につなげる。

それぞれのポイントを指導計画の中に入れるとともに、使う資料についても明示した。

保健学習　第5学年　体育科「けがの防止」指導計画

５時間予定＋１時間（学級活動）

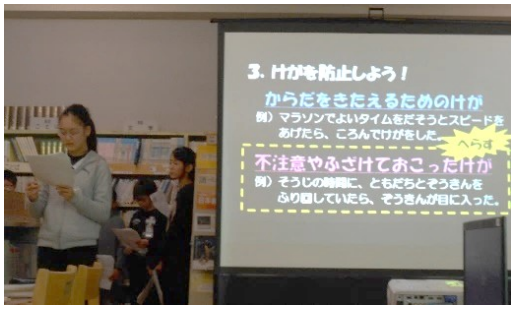
単元の目標	○けがの防止やけがの手当について、資料を調べたり、進んで課題に取り組んだりしようとしている。【関心・意欲・態度】 ○けがの防止やけがの手当について、課題を見つけたり解決の方法を考えたり、判断したりできる。【思考・判断】 ○けがの防止には、周囲の危険に気づくこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること、また、けがの簡単な手当は速やかに行う必要があることについて理解できる。【知識・理解】
指導の工夫	**＜ポイント１＞児童保健委員会の取り組みや資料の活用** ・保健委員会が作成した校内の「けがマップ」、アンケート結果などを資料として活用したり、保健委員の仕事で気づいたことを発表させたりする。 ・自校や地域の事例を使った具体的な資料を適宜活用する。 **＜ポイント２＞養護教諭とのＴ・Ｔ指導** ・専門的な立場からの説明や実習の指導を行うことで学習内容の理解を深めるとともに、グループ活動ではきめ細かく見取り、指導に生かす。 **＜ポイント３＞体験的学習の工夫** ・ロールプレイングや模擬実習などを取り入れ、理解した知識を使って実際にやってみることで、実践化を図る。

学習活動・指導上の留意点	評価項目	準備
第１時　事故やけがの原因 事故やけがはどんな原因で起こるのか考えよう。 ○身の回りで起こったけがや事故について思い起こす。 ・**保健委員会が作成した校内の「けがマップ」や「けがの来室者数」のグラフ、アンケート結果を活用**し、身の回りでたくさんのけがやけがにつながりそうなことが起こっていることに気づかせる。**＜ポイント１＞** ○教科書の P12,13 の絵の中から事故が起きそうな場面とその原因について考える。 ・学校だけでなく色々な場面で事故やけがが起こっていることに気づかせる。 ・原因について「人の行動」と「環境」から考えさせる。	【知】事故やけがは「人の行動」と「環境」が関わり合って起こることが分かる。	「けがマップ」 「けがの来室者数」のグラフ 「アンケート」
第２時　学校や地域でのけがの防止 学校や地域で起こるけがをどうすれば防止できるか考えよう。 ○けがの原因からけがを防止する方法（対策）について具体的な場面絵をもとに考える。 ・「人の行動」と「環境」の両面に着目させる。 ・学級活動で取り組んだ場面絵も思い出させ、潜在的な危険についても考えさせる。 ・グループで話し合ったことをもとにけがを防止するために大切なことを全体でまとめる。 ○けがを防止するために学校や地域では環境をどのように整えているか考える。 ・教科書の例をもとに自分たちの学校や地域で行われていることに目を向けさせる。学校における取り組みでは、**保健委員会が貼った「けが防止マーク」についても触れ、自分たちでも環境を整えていく必要性についても気づかせる。**　**＜ポイント１＞**	【思】どうすればけがを防止することができるか、「人の行動」と「環境」から考えることができる。	場面絵【前学年用】 「けが防止マーク」
第３時　交通事故の防止 交通事故の防止について二つの原因から考えよう。 ○ひそんでいる危険を見つけてそれを回避する方法（対策）を考える。 ・教科書 P18,19 の場面絵を使い、潜んでいる危険を「人の行動」「環境」の両面からとらえさせる。 ・グループで話し合ったことをもとにけがを防止するために大切なことを全体でまとめる。 ○道路標識や施設設備の役割や身近な交通安全のための工夫について考える。 ・**教科書の例だけでなく学校区内にあるものについても挙げさせ、交通安全のために様々な取り組みがなされていることを理解させる。**　**＜ポイント１＞**	【知】交通事故の防止には、安全な「人の行動」と「環境」の整備が必要であることが分かる。	学校区内の標識の写真 通学路安全マップ
第４時　犯罪被害の防止 ゆうかいや暴力などはどうすれば防げるか考えよう。 ○ゆうかいや暴力などの事件などの犯罪が起こりやすい状況について考える。 ・犯罪が起こりやすい時や場所、犯罪に合わないための行動について知らせる。 ○犯罪被害の防止について考える。 ・犯罪にあう危険性を「人の行動」と「環境」から考えさせる。特に環境については、「まわりから**見えにくい**」「だれでも簡単に**入りやすい**」場所には危険が潜んでいることを考えられるようにする。 ・**学校区内の公園の写真でも「見えにくい」「入りやすい」のキーワードを使って考えさせる。**　**＜ポイント１＞** ○犯罪被害にあわずに生活するために大切なことをまとめる。 ・**犯罪に巻き込まれそうになったときにすぐに助けを求めることをロールプレイングで実践的に学ばせる。**　**＜ポイント３＞**	【知】犯罪を防ぐためにどうすればよいか「人の行動」と「環境」の両面から分かる。	- 学校区内の写真 こども110番のマーク
（第５時　自然災害によるけがの防止…学級活動の時間） 自然災害によるけがはどうすれば防げるか考えよう。 ○地震による災害について知る。 ・安全教育「災害から守る」の DVD を視聴してどんな災害が起こるかを話し合う。 ○地震によるけがはどのように防いだらよいか考える。 ・色々な場所での避難の仕方について理解する。 ○大きな地震が起きたときに潜んでいる危険やその減らし方について考える。人や物がどうなってしまうか予測し、対策を考える。 ・**教室での危険について実際に予測し、話し合う。＜ポイント３＞** ・　避難訓練のときに学んだことを再確認する。（おはしも） ○他の自然災害が起こったときも安全に行動することや日頃の備えが大切であることを理解する。	自然災害によって起こる危険を予測し安全に行動できる。	安全教育 「災害から守る」DVD
第６時　けがの手当　T1 学級担任　T2 養護教諭 けがをしてしまったときには、どうすればよいかを考えよう。 ○けがの手当の必要性について考える。 ・クイズを取り入れ、けがの手当について関心を持たせる。（T1） ・手当をしなかったために症状が悪化してしまった事例を知らせ、正しい手当を速やかに行う必要性をとらえさせる。（T2） ○けが人が出たときにどうすればよいか考える。 ・けが人が出たときの行動について話し合う。（T1） ・できるだけ速やかにけがの種類や程度を把握し処置することが必要なこと、大人に知らせることの大切さを強調する。（T2） ○けがの簡単な手当の方法について実習をとおして理解する。 すりきず：清潔な水で洗い、ガーゼ等を当て傷口を保護する。 切りきず：清潔なハンカチなどで傷口を圧迫し、止血する。 やけど：すぐに清潔な水で、十分に冷やす。 打ぼくやつき指、ねんざ：すぐに冷やし、安静にする。 ・**実習のポイントを説明する（T2）、見取りと個別指導をする（T1）「傷口はせいけつにする。」「あっぱくして止血する。」「かんぶを冷やす。」**　**＜ポイント２、３＞**	【関】けがの手当について実習に進んで取り組もうとしている。 【知】けがの簡単な手当の必要性とその方法が分かる。	

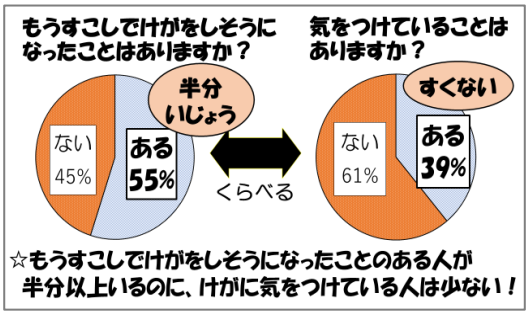
（４）学校保健委員会

①　発表「けが防止について考えよう」

保健委員会が、全校児童を対象にした「けがに対する意識調査」の結果を報告するとともに、不注意やふざけて起こったけがを防止していくために、活動してきたことを発表した。意識調査では、けがをしたことがあると答えた児童が、８７％とほとんどであるのに対して、けが防止のために日ごろから気を付けていることがあると答えた児童は、３９％と少ないことがわかった。その中で、けが防止のために危険予測をすることが大切であることを再確認した。



保健委員会の活動の様子⑤



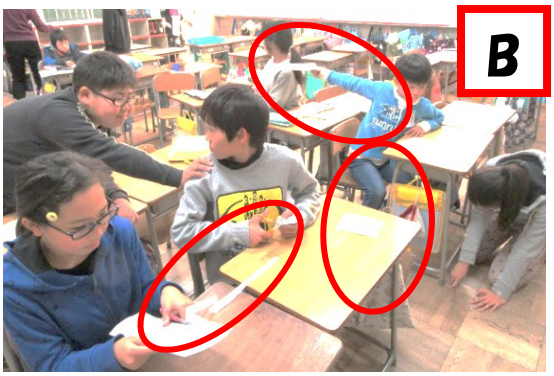
けがに対する意識調査

②　危険予測の実践と意見交流

危険予測について考えてもらうために、休み時間の場面絵（写真）Ａ、Ｂを使用し、参加者全員で教室での危険予測を行った。それぞれの場面絵には、事前に保健委員会が考えたけがに繋がるかもしれない場面をいくつか入れた。

意見交流では、場面絵から予測される危険と、それに対する改善策（けが防止のための行動）について、グループワークを行った。危険と思われることをピンクの付箋に、その改善策を水色の付箋に書き、場面絵（写真）のどの部分のことなのかが分かるように貼って発表した。

保健委員会の活動の様子⑥



休み時間の場面絵（写真）

保健委員会の活動の様子⑦

参加した児童会本部の児童は、学校には隠れた危険がたくさんあることが分かったので気を付けていきたいという感想を述べていた。また、保護者からは、「けが防止について調べみんなで話し合いながら改善策を考え取り組んでいたことに感心した。」「実際に危険予測をしてみて普段の何気ない日常の中にもけがにつながるかもしれない場面があると実感した。」という声があった。

③　事後指導（保健集会及びほけんだより）

保健集会では学校保健委員会の意見交流で出された意見等の報告を全校児童に行った。また、同時に「ほけんだより」を発行、学校ホームページにも掲載し、家庭への周知を行った。

学校保健委員会の成果としては、参加者が実際に危険予測をし、意見交流したことで、けが防止のための行動について具体的に考えることができたことや、安全部が冬休みの交通安全について危険予測を取り上げ、学校保健委員会と関連させて全校児童に指導するなど、取組が広がったことが挙げられる。一方、課題としては、参加していない保護者や職員も危険予測を実践し意見交流ができる機会があると良いことで、改善策として、学級、学年等による事後指導を充実させるとともに、保健室掲示、「ほけんだより」を通じた情報発信を継続的に行うことや、職員が研修する機会を確保していくことを考えている。

（５）けがのふりかえりシート

保健室にけがで来室した児童に対する個別指導として、けがのふりかえりシートを活用した聞き取りを行った。

保健委員会の活動の様子⑧

休み時間には保健委員が来室した児童に対して聞き取りを行った。

けがのふりかえりシートのポイントとして次の二つのことを考えた。

＜ポイント１＞

自分自身のけがが「体を鍛えるためのけが」か「不注意やふざけて起きたけが」かを考え、後者の場合は、今後のけがを防ぐための自分の行動について記述する。

＜ポイント２＞

児童が記述したものを一部掲示することで、当該児童が自分の行動を再度振り返ったり、他児童が友達の経験から学び合ったりする機会となる。保健室前に、どうすればけがを防ぐことができたか児童が記述したものを掲示した。

けがのふりかえりシートの成果として、児童が不注意やふざけて起きたけがを自覚し、けが防止のための自分の行動を考えることができたこと、掲示されたものを見た他児童が友達の経験から学び合うことができたこと、担任等と情報共有する際に資料として活用できたことが挙げられる。

一方、課題としては、けが防止のための行動は、よく考えることができているが、さらに行動化へと繋げていけると良いことが挙げられ、繰り返しの個別指導が必要であると考える。

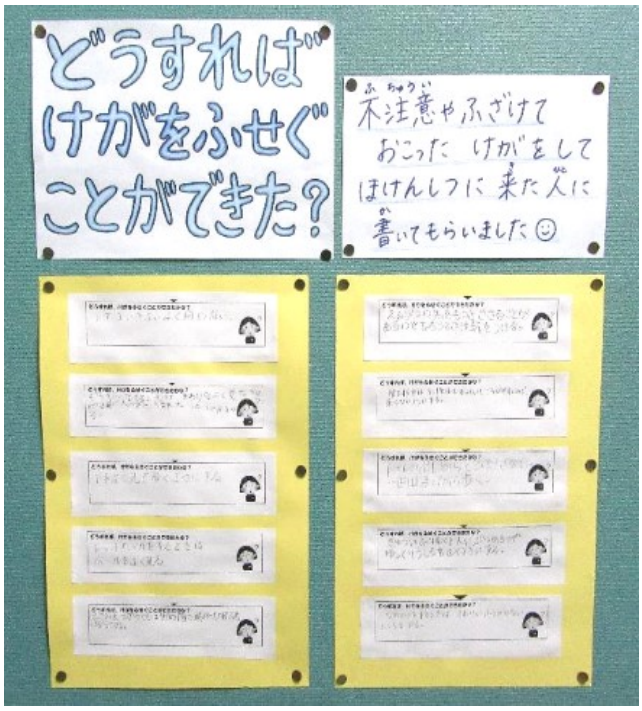
けがのふりかえりシート

（　　）年（　　）組　名前（　　）

◆けがの様子を思いだして書こう！

いつ	（　　）月（　　）日（　　）曜日　（　　）時（　　）分			
どんなときに	とうげこう中・あさ・じゅぎょう中・たいいく・20分やすみ・きゅうしょく そうじ中・ひるやすみ・ほうかご・クラブ活動・そのた（　　）			
ばしょ	こうてい・きょうしつ・特別きょうしつ（　　）・ろうか・かいだん げんかん・トイレ・たいいくかん・つうがくろ・そのた（　　）			
どんなけが	すりきず・きりきず・さしきず（とげ）・うちみ（だぼく）・ねんざ・つきゆび 歯のけが・目のけが・はなぢ・そのた（　　）			
からだのどこが				
何をしていてどうなった				
どうしてけがをしたのかな？	じぶんのこうどう	ふざけていた	むりをした	きまりやルールをまもらなかった
		おこっていた	ぼーっとしていた	まわりをよくみなかった よそみをしていた
		あわてていた いそいでいた	急なうごきをした	気がつくのがおそかった
		そのた（　　）		
	まわりのかんきょう	あぶないものやこわれているものがあった		
		あぶないばしょだった（ゆかがぬれていた・地面がへこんでいた）		
		そのた（　　）		
	そのた			
じぶんのけがをどう思う？	不注意やふざけておきたけが　・　体をきたえるためのけが			

どうすれば、けがをふせぐことができたかな？

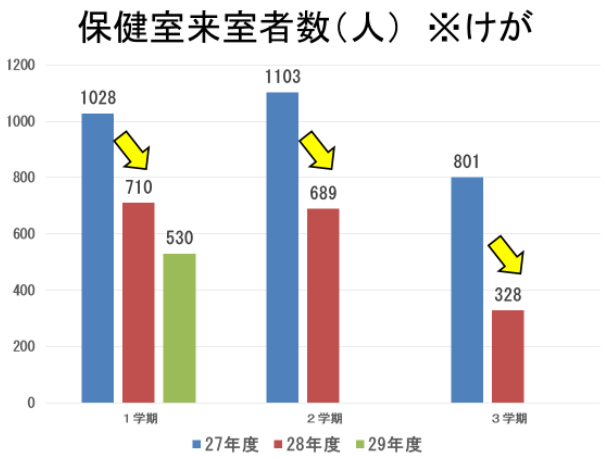


保健室前の掲示

５　実践全体の成果と課題

（１）成　果

１年間、重点目標「けが防止に関する意識を高める」を掲げ、特別活動（委員会活動、学級活動）や探究的な学習の充実という視点を大切にして取り組んだ結果、周りの環境に注意して行動するなど、けが防止や安全を意識し、危険予測を実践する児童が多くみられるようになった。



保健室来室者を平成２７年度と平成２８年度で比較すると、１学期は約３０％、２学期は４０％近く、３学期は約６０％減少した。さらに、平成２９年度は１学期のみの人数であるが、約２５％減少し、平成２７年度の約半数であった。スポーツ振興センター災害件数は、平成２７年度が１７件に対し、平成２８年度は８件に減少しており、特に、不注意によるけがが８件から３件へと減少した。

このことから、校内で起こるけが防止に向け、課題解決的な活動を行ったことで、児童のけがの意識を高め、けがに対する危機回避能力が少しずつ育ってきたと言える。

（２）課　題

児童のけが防止や安全への意識が低いことに焦点を当て、取り組んできたが、危険予測をした上でさらに行動化へと繋げていく必要があることが課題として残った。また、けがで頻回来室する児童への個別指導をより充実させるなど、学校全体でけが防止に取り組む体制整備と職員間の連携が重要であると考える。

今後は、定期的な危険予測の実践と安全教育に関する指導等、今回の取組を継続していくとともに、家庭や地域でのけが防止にも目を向け、安全教育をより一層推進していきたい。

参考文献

岡山市小学校保健部会　他：岡山市学校保健研究集録（第３６集），２０１３．